

## この会社に出会ったことが、キセキです！

### ヤマト運輸株式会社

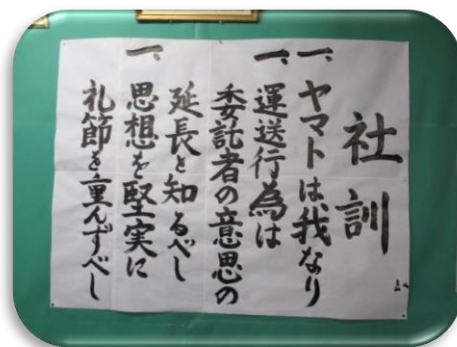
（「宅急便」など各種輸送に関わる事業  
／鹿沼市（栃木主管支店）  
【雇用障害者数】33名（栃木県内）

DM便・宅急便の仕分けを担当するYさん（知的障害）について、栃木主管支店宇都宮ブロック赤羽根ブロック長と松本エリアマネージャーにお伺いしました。



#### 【採用・雇用のきっかけ】

特別支援学校からの職場体験として、実習の受入れを検討しました。学校で本人と面談をした際に、社訓に掲げている礼節が備わっていると感じられたため、実習を決定しました。



#### 【雇用にあたっての取組】

##### ● アプローチ1 実習内容～実習中の様子

業務としてはDM便・宅急便の仕分けを行いました。実習生は実習日誌を使用し、本日の業務の振り返りと翌日の目標などを記入しますが、その目標を達成することが本人の習得度向上に大きくつながっていきます。また、実習期間中に体調を崩したことがあります。そのことにより体調管理も仕事の一部と理解したようです。

##### ● アプローチ2 社内への理解や周知、職務の選定から採用決定まで

朝礼において、全従業員に対して実習受入れを決定した面談時の印象を伝えると共に、本人への指示の仕方、障害の特性、無理をさせないことも併せて周知しました。

職務の選定については、学校からの情報を参考に実習時に見極めを行いました。Yさんの場合、集中力の継続が難しい場合があるようなので作業系の業務としました。

採用としたポイントは、最初の面談の段階から好感が持てたこともあります。挨拶が素晴らしいことが挙げられます。実習中はその挨拶が職場を和ませてくれました。

### ● アプローチ3 支援機関との繋がり、関わりについて

障害者就業・生活支援センターの支援員が本人、採用担当者と面談しました。また、特別支援学校から卒業後の定期的な訪問を受けています。



#### 【職場定着のための配慮・工夫など】

実習中多少疲れた様子が見受けられたことから、途中休憩を設けています。

休憩時間のとり方は繁忙期や当日の業務の流れもあり、Yさん本人に判断をまかせていますが、15分間としています。

#### 【現状と今後の課題】

Yさんの持ち味は元気の良さですが、若さや障害特性から、例えば、高いところに昇ったり、職場を走り回ったりしてしまいます。安全面からも注意を促す必要がありますが、どのように指導し、仕事の厳しさを教えていくかが今後の課題です。

勤務時間を現在の短時間労働からフルタイム勤務へ移行することや、社有車を運転することを検討しましたが、安全配慮の面から条件的に難しいと判断しました。引き続き他の業務の切り出しを行い、どのような業務があるのか探りたいと思っています。同時に、ステップアップ出来る環境を作り出すことを考えています。Yさんがいずれリーダー的存在となることを想定し、リーダーとしてのポストの準備と共に、年長者が入社した際のコミュニケーションの取り方などを教える必要があります。

#### 【Yさん（10代男性）へのインタビュー】

Q. 現在はどんな仕事をしていますか？

A. DM便の仕分け・宅急便の仕分け・ポータブルポス（情報端末入力）による送り先情報の入力・冷蔵車と冷凍車の温度管理調節などです。

Q. 現在の仕事はどうですか？

A. 実習中から継続している業務なのでやり易いです。最初は緊張していましたが、周りの人が優しくしてくれたことで緊張感も取れ、感謝しています。

繁忙期には人手が不足気味になりますが、忙しいときはマネージャーなども手伝ってくれるので助かります。

分からない事はきちんと聞くように心掛け、今はこの仕事にやり甲斐を感じています。



Q. 今の職場はどうですか？

A. 楽しく、仕事しやすい環境です。マネージャーやドライバーの人たちとは雑談や相談もでき、人間関係に恵まれていると思っています。最初の頃は気が張って疲れもありましたが、色々な経験を積んだことで今は大丈夫です。

僕の中では、この会社に出会ったことが、キセキです！

Q. 将来の目標はありますか？

A. (仕事をする事が目標だったので) まずは、目の前の仕事に打ち込むことです。

在学中には弟の世話や家事の手伝いで母を支えていましたが、収入を得ることで経済的にも少し支えることが出来ました。今後は今よりもっと母を支えてあげたいし、1人暮らしもしてみたいです。母は「夢を持つのは大事だから」と言ってくれます。

また、休日は小学校からの友人と会いリフレッシュすることで、月曜日からの仕事をまた頑張れます。



#### 【取材を終えて～取材担当者コラム】

Yさんはとても明るく常に笑顔で対応していました。是非、今の前向きな姿勢で、充実した素晴らしい人生を歩んでもらいたい！と思わず願ってしまうような若者でした。